

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
生理機能検査学実習Ⅰ	1年次	必修	実習	1単位（45時間）	野邊 八重子 ※
授 業 概 要					
政令で定める生体機能検査を円滑に実施するための技術を修得する。生体機能情報を収集するための理論と実際、そして結果の解析と評価をできるようにする。この実習を通して臨床実習に繋がられる力を身に付ける。					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋電図検査、呼吸機能検査、聴覚検査、味覚検査、嗅覚検査に必要な知識を理解する。</li> <li>・測定法の原理を理解し、機器の操作ができる。</li> <li>・測定におけるアーチファクトを理解し、迅速に精密に正確に結果を出すことができる。</li> <li>・正常所見、異常所見を理解し、結果判読ができる。</li> </ul>					
実務経験のある教員					
外山 竹弥、星野 ちなみ、野邊 八重子：病院での臨床経験を踏まえ、脳波検査、平衡機能検査、聴覚検査および味覚検査における知識と技術を概説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1-7	筋電図検査				小林 浩二
8	・末梢神経伝導検査				
9-15	呼吸機能検査				外山 竹弥※
16	・スパイロメータによる検査と検査結果の評価				
17-20	聴覚検査				星野 ちなみ※
21	・フローボリューム曲線、ピークフローメータ				
22	味覚検査				野邊 八重子※
23	嗅覚検査				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気味覚検査・検査結果と解析の評価</li> <li>・T&amp;T オルファクトメータ・検査結果と解析の評価</li> </ul> ※機器等の都合により実習内容を変更することがある。				
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本実習は学生同士が被検者と検者役になって測定を行い、操作方法と結果判読法を習得する。</li> <li>・授業開始前に教科書及び講義ノートを読んで実習内容の検査について予習をし、講義後は復習をする。</li> <li>・実習中の待ち時間を利用してレポート作成が可能のため、レポート用紙、参考書、教科書を持参すること。</li> <li>・実習を欠席する場合は事前に科目担当者に了承を得ること。無断で欠席した場合は以降の出席を認めないことがある。やむを得ず実習を欠席した場合は、補習実習を行うので申し出ること。</li> </ul>					
評 価 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習修了試験（実技を含む）70%、レポート30%により評価する。欠席は減点とする。</li> <li>・レポートはレポート評価基準（ガイドライン）に基づき評価する。これに満たない場合は評価しない。</li> <li>・再試験は筆記試験で評価する。但し、レポートを提出していない場合は評価しない。</li> </ul>					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
〔教科書〕 最新臨床検査講座 生理機能検査学 東條尚子 他 医歯薬出版 〔参考書〕 臨床検査学実習書シリーズ 生理機能検査学実習書 今井正 医歯薬出版株式会社 ぜんぶわかる人体解剖図 坂井建雄、橋本尚詞 成美堂出版 〔資料〕 配付資料					